

火成岩・変成岩年代からみた西南日本とコリア半島の対比

伊藤英文・木下 修 (大阪府大・総合)

我々は、火成岩年代の地域変化を調べることに
より、アジア大陸東縁帯中生代火成岩帯は、海側
に位置する新帯とその陸側の旧帯の二つに分けら
れ、両者の活動は縁辺に沿って南西から北東へ30km/
Maの速度で移ったことと、それらがコリア半島
を通過したのはそれぞれ約170Maと100Maであつ
たことを示した(木下・伊藤,1988,地質雑). この
規則性を利用すれば、コリア半島に対して西南日
本の古位置を復元できる. その第一歩として新帯
の半島東南部の仏国寺花崗岩帯は西南日本火成岩
帯に連続することを示した. 本報ではさらに旧帯
の三郡帯と半島の大宝花崗岩帯について検討する.
それより先我々は、高圧型の三波川変成岩年代の
地域変化が、対をなす低圧型の領家変成岩年代の
それと一致するのみならず、両者は内帯火成岩年
代の地域変化の傾向を海側へ延長したものである
ことを示して、三者は一連の出来事であるとした
(木下・伊藤,1986,地質雑).

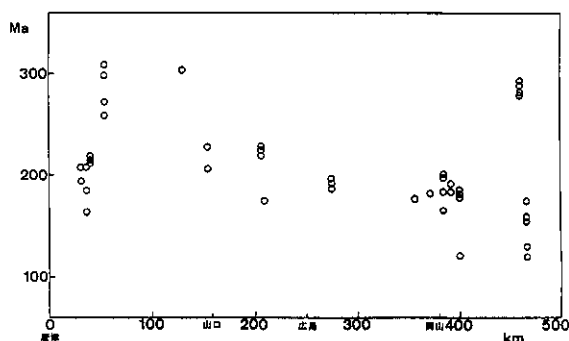
三郡変成岩(高圧型)の年代について近年詳しい
検討を加えたものが出された(柴田・西村,1989,地
質学論集). これを用いて第1図の地域変化図を
作った. 三郡変成帯の方向をMTL方向に平行と
みなして、横軸は試料採取地点をMTLへ投影し
た距離である. 第1図より、データは少ないが横
軸に対して変化しない280Ma前後の古期変成岩群
と、横軸方向に明らかに若くなる220~170Maの
新期変成岩群があることが読取れる. 前者は後者

よりも大陸側に分布し、古生代末~三疊紀変動に
関係したものであろう. 後者がジュラ紀変動に対
応する. 第1図に隠岐の片麻岩年代をプロットす
ると、新期変成岩の傾向線上に乗り、隠岐帯と三
郡帯とは対をなす変成帯と考えられる.

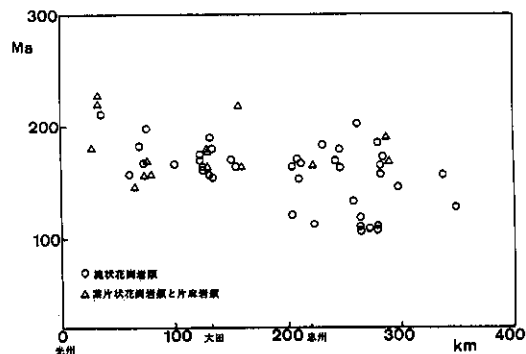
「Geology of Korea」(1987)に、コリア半島の
火成岩、変成岩の放射年代がリストされている.
第2図はその資料に基づいて作ったジュラ紀大宝
花崗岩類年代の地域変化図である. 大宝花崗岩は
主に、シニアン方向(N30° E)の沃川帯に分布
するので、横軸はその方向に取ってある. 第2図
に記入した葉片状花崗岩類は沃川帯の南東側に分
布する傾向がある. 片麻岩類はそれに隣接する小
白山陸塊中にも分布する. 第2図より年代値の分
布は全体的にみて明らかに横軸方向に若くなる.
さらにシニアン方向に垂直方向(N60° W)の年代
分布図をも作った. それらは内陸方向に若くなる
傾向を示す. 花崗岩と低圧変成岩の年代が以上の
ようにシニアン方向の北北東へ、そして内陸部へ
と若くなる規則性は、新帯の西南日本内帯火成岩・
変成岩について得られた規則性と類似である.

第1図と第2図はほぼ同じ年代を示し横軸方向
に若くなる傾向も同じで、旧帯の規則性に合う.
この事実は三郡変成岩と大宝花崗岩とは旧帯に属
し一連の成因によることを示唆している.

(1988年冬の例会)



第1図.三郡変成岩年代のMTL方向地域変化



第2図.大宝花崗岩年代のシニアン方向地域変化